ヤングこだま

浜田医療センター付属看護学校

小・中・高校生から専門学校、短大、大学の学生まで、若い人たちの意見を特集するコーナー「ヤングこだま」です。今回は浜田医療センター付属看護学校2年生の皆さんです。学校、学級単位での投稿を募集しています。学校、投稿希望の学校は「ヤングこだま」係・電話0852(32)3305までご連絡ください。

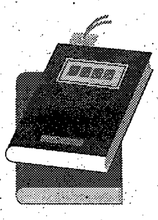
「学校生活1年を終えて」

とてもすごい職業と再認識

2年　稲若　沙姫

ちょうど1年前の今頃は不安とともに、夢だった看護師の勉強ができるという楽しみな気持ちもありました。しかし、実際は課題やテストに追われ、想像とは比べものにならないくらい苦しくて忙しい毎日でした。でも、そんな中で友達との関わりや勉強は楽しく、充実していました。

私は実習に行った時、コードブルー(患者の容態が急変して心肺停止などの緊急事態が発生すること)を間近で見ました。コードブルーがかかった時は、泣きそうになるくらい不安で仕方ない気持ちでいっぱいでした。しかし、その時の看護師さんの冷静な判断力、他者との連携ぶりは、とても印象深く残っています。



申し送りの途中で患者さんの異変に気付き、すぐに対応する姿はとてもかっこ良く、私もあんな看護師になりたいと強く思いました。

医師はもちろんですが、看護師も患者にとっては一番近い存在で、異変に気付き、患者の命を救うことができる、とてもすごい職業だと改めて実感しました。

看護学生になって1人暮らしになり、何度か体調を崩したことがありますが、小児保健の授業で食育について学び、食生活に気を付けるようになりました。おかげで疲れがたまりにくくなり、朝の目覚めもよくなりました。小学生の頃から家庭科で習っていたから分かるだろう、と思っていた基礎知識も完全に忘れていましたが、授業を通して思い出すことができて本当によかったです。

大切なコミュニケーション

2年　口屋　里菜

看護学生として1年間過ごしてみて、1年たつのはとても早かったと感じています。高校生の時と比べ、人と関わりコミュニケーションを取ることが多く、人見知りな私には一番つらかったです。高校生の時は仲が良い人たちとだけ話し、苦手な人とは話さなくてもやっていけましたが、看護学校ではそうはいかないことが分かりました。

授業中にグループになり、自分の意見を伝えたり、みんなで課題を考えたりすることがありました。自分の意見は持っていても、話を振ってくれないと意見が言えなかったこともあったので、自分から意見を言うことは大切だと思いました。

また、実習では、根拠を持って意見を述べる、目上の人に対する言葉や態度に気をつける、患者さんとは言葉だけでなく表情や声のトーン、目線を合わせてコミュニケーションを取ることなどが大切だと学びました。

他の職種でも看護でもコミュニケーションを取ることが大切になってくると思います。そこで、コミュニケーション力を磨くためにまずはあいさつをすることから始め、相手の話をよく聴く、相手が理解できるように話す、誰とでも話せるように努力していこうと思いました。

コミュニケーション力だけでなく、知識や正しい技術を身に付け、患者さんに安全・安楽な看護を提供できるように、日々の授業に取り組んでいこうと思いました。

実習で実力や知識不足痛感

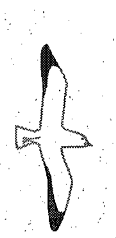
2年　鈴木　結菜

看護学校に入って1年がたちました。専門学校ということもあり、毎日看護師になるための専門的な知識、技術を学んでいます。

もちろん座学もありますが、高校までとは違い、実習室での実践的な学習が増えました。実習室では陰部洗浄や清拭(せいしき)、車いすへの移乗など、これまで数多くの実技を学んできました。放課後には友達と練習し合って技術を高めてきました。

病院実習は今まで2回行い、2回目では初めて実際に患者さんに援助を実施してみました。その中で思ったことは、学校では自分で動ける人を相手に練習してきましたが、病院では病気などで援助が必要な患者さんが相手なので、練習してきた時とは違い、スムーズにできませんでした。

しかし、病院での実習では、指導者さんから援助の仕方だったり、コミュニケーションの取り方だったり、実習だからこそ学べることを教えていただきました。



病院で実習してみると、まだまだ実力や知識不足で実技練習や学習が必要なことなど、多くの課題が見つかりました。ですから、学校での実技練習や普段の授業をしっかり受けて、自らの学習も深め、確実に自分のものとなるようにしていきたいです。学校での3年間は長いようであっという間に過ぎていくと思うので、無駄のない充実した学校生活を送りたいと思います。

患者の求めに応じた援助を

2年　横山　恵加

看護学校に通い始めて1年が過ぎましたが、小、中学校、高校とは違って専門的な知識を学ぶことや、実際に臨床現場に携わっておられる医師や看護師の方の講義を受けることで、充実した日々が送れています。

2日間と5日間の実習も経験し、看護師を目指す上で必要なことを学ぶことができました。それは二つあり、まず一つ目は患者さんのニーズに応じた援助を提供する必要があるということです。

患者さんを援助する際、私は自分がしたい援助を考えてしまっていました。しかし、それは自分がしたい援助を患者さんに押し付けてしまっていたことにもなりかねません。患者さんによって疾患や症状、求められる援助もそれぞれですので、その患者さんに合った看護を提供していかなければならないのです。

二つ目は、援助する際は根拠を持って行わなければならないということです。ナイチンゲールの『看護覚え書』にもあるように「患者の生命力の消耗を最小限に抑えること」が大切です。援助を実施する際、患者さんに苦痛を与えることがないよう配慮しなければなりません。しかし、痛みを伴うものも多く、そんな場面ではコミュニケーションを取り、できる限り苦痛を排除できるよう、スキルアップとコミュニケーション能力の向上を目指していきたいです。

この1年間で、看護師とは命に関わる責任重大な職業だと改めて分かりました。今自分に何ができるのか、将来どのように働いていきたいのかを深く考えて、すてきな看護師になりたいです。